

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520476

研究課題名(和文)機能範疇の働きと(マイクロ)パラメーターに関する日韓対照研究

研究課題名(英文)Comparative studies in Japanese and Korean with respect to functional categories and (micro-)parameter settings

研究代表者

青柳 宏 (AOYAGI, Hiroshi)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：60212388

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：本課題研究の成果として、つぎのことが明らかになった。まず、統語形態論的に日本語は韓国語よりもより広範な領域の機能範疇が利用可能であるようにパラメーター設定がなされている。具体的には、前者ではVoicePとTPの間でHigher Applicativeが、VPより下でLower Aspectがそれぞれ利用可能である。つぎに、日韓語はいずれも分裂文を形成するが、「主格制約」に関して違いを示し、同制約が前者では統語部門で作用し、後者では音韻・形態部門で作用する。さらに、日韓の幼児は、格助詞と後置詞の区別、項削除の可能性に関して、観察しうる最初期において既に成人と同様の知識を有している。

研究成果の概要(英文)：As the result of our studies, the following points have been made. First, morpho-syntactically, a wider range of functional categories are available in Japanese. More concretely, Japanese, unlike Korean, is so parametrized that Higher Applicative (higher than VoiceP) and Lower Aspect (lower than VP) are available. Consequently, indirect passives on intransitive verbs, the auxiliary use of the verb of receiving, and "lexical" compound verbs whose V2 is aspectual are possible only in Japanese. Secondly, although both Japanese and Korean allow pseudo-clefts, the nominative restriction can be lifted by multiple foci in Japanese, but not in Korean. This strongly suggests that this constraint applies in syntax in the former but in PF in the latter. Finally, both Japanese- and Korean-speaking children, like their adult counterparts, know the distinction between case markers and postpositions and the availability of argument ellipsis at the earliest stage of their language acquisition.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：日韓対照 機能範疇 パラメーター 統語論 形態論 複合動詞 移動 項削除

1. 研究開始当初の背景

(1)Chomsky (1981)で初めて「原理とパラメータ理論(principles and parameters theory)」の全体像が示されたのち、Borer (1984)が言語間の差異は機能範疇の違いにのみ帰せられるべきだと提案し(Fukui 1986 も日英比較の立場から同様の主張をしている)、Chomsky (1995)以来、この仮説は Borer-Chomsky Conjecture として広く知られている。

(2)Rizzi (1982)は英語とイタリア語の違いを説明するために「空主語パラメータ」を提案したが、より最近の研究(たとえば、Roberts and Holmberg 2010)では、Rizzi の「空主語パラメータ」のような複数の効果をもたらすものはマクロパラメータと呼ばれるべきもので、より微細なミクロパラメータの組み合わせでそれらの効果を説明すべきだと主張がなされている。

(3)ミクロパラメータは互いに類似した言語間の差異を説明するのに適しており、実際に主としてロマンス諸語、スカンジナビア諸語などのヨーロッパの言語を対象に進められており、アジアの言語での研究はほとんどなされていない。

2. 研究の目的

上述の「背景」を受けて、日本語を中心とした(ミクロ)パラメータの研究を推進するには、日本語と類似した言語との比較対照研究が効果的かつ不可欠である。よく知られているように、韓国語は日本語との系統的關係は不明ではあるが、両言語は厳密な主要部後置型の膠着言語であり、形態的、統語的に多くの点で類似している。しかるに、両言語の差異と機能範疇の働きを詳細に検討することによって(ミクロ)パラメータの理論に貢献することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、研究代表者(青柳)と研究分担者(高野、杉崎)は互いに連携しながら、各自以下のような研究課題 A~C に取り組んだ。

研究課題 A(青柳(研究代表者)担当)は、日韓語のボイス(使役・受動)交替、授受表現、複合動詞形成などに着目し、これらの現象における両言語の違いを詳細に調べ、それらの差異が両言語の機能範疇のあり方とどのように関わっているかを検討した。さらに、複合動詞形成において日韓両語のいずれとも顕著な違いを示す中国語も考察の対象とした。

研究課題 B(高野(研究分担者)担当)は、移動現象に着目し、主として分裂文における日韓語の差異を説明するための(ミクロ)パラメータ設定の違いを追究した。

研究課題 C(杉崎(研究分担者)担当)は、言語獲得の観点から、日韓語における助詞と後置詞の違いが初期において獲得されているか

否か、また、両言語は項削除を許す言語であるが、それを許さない言語と(ミクロ)パラメータ設定がどのように違っているのかを明らかにするために研究を進めた。

また、研究代表者・研究分担者はそれぞれの研究課題について国内外の学会において研究成果を発表し、多数の研究者と意見交換を行った。

さらに、本研究課題の成果を広く公表するために、最終年度の平成 25 年 12 月に三重大学において「日韓比較言語学ワークショップ」を公開で開催し、研究代表者・研究分担者が各自 3 年間の研究の成果発表を行い、韓国国立ソウル大学から招聘した 2 名の研究者や一般参加の研究者も交え、意見交換と総括を行った。

4. 研究成果

研究課題 A

(1)日本語が除外型(典型的には自動詞語幹)の受動文を許すが、韓国語はそれを許さない。また、日本語には補助動詞としての授受動詞(〜テ)モラウが発達しているのが、韓国語の pat-ta (モラウ)はこの用法が未発達である。そこで、日本語には VP 直上の High Applicative (Pylkkänen 2000, 2006; McGinnis 2001)よりさらに高い、VoiceP 直上に Higher Applicative なる機能範疇が存在するのに対し、韓国語にはこれが存在しないと仮定することで、上述の日韓語の違いが統一的に捉えられることを示した。

(2)内項の状態変化を含意する結果複合動詞は、日本語では「他動性調和原則」に従い、中国語ではこれに従わず、他動詞+非対格自動詞の組み合わせが一般的である。この違いは、日本語の結果複合動詞が「語彙的に」生成されるのに対し、中国語では Aspect 主要部を介して統語的に生成されるためだと分析を提示した。

(3)日韓語の複合動詞において、日本語では語幹同士が併合したものが生産的であるが、韓国語では連結母音-e が仲介するものがより生産的である。これは、日本語が語根同士がまず併合したのちに動詞化素が併合するのに対し、韓国語ではこれは希で、語根と動詞化素が併合したものの併合がより生産的であるとの分析を示した。この結果、影山(1993)らによる「他動性調和原則」はこの分析の帰結にすぎないことを示した。さらに、日本語には VP 直上の Low Aspect (MacDonald 2008; Travis 2010; Fukuda 2012)よりもさらに低い位置に Lower Aspect が存在することも示唆した。

研究課題 B

(1)日本語多重分裂文における同節要素制限に関して、その例外を精査することで、例外に一定の規則性があることを明らかにし、その規則性が束縛の移動理論の観点から自然

に説明できることを提案し、この提案が束縛の移動理論を支持する新たな証拠となることを示した。

(2)日本語分裂文における主格制約について、多重分裂文がその例外となることを明らかにし、多重分裂文のその特性が句構造のラベル付けの観点から説明できることを提案し、この提案が Chomsky (2013)のラベル付け理論を支持する新たな証拠となることを示した。

(3)韓国語分裂文における主格制約が日本語の場合とは異なるパターンを示すことを明らかにし、日本語の主格制約が統語的なものであるのに対し、韓国語のそれは音韻・形態的なものであるという違いを生み出すミクロパラメーターの存在を示唆した。

研究課題 C

調査対象として取り上げた現象のうち、(1)格助詞、(2)項削除のいずれについても、幼児は観察しうる最初期から成人と同質の知識を持つことを明らかにした。

(1)格助詞については、主題を表す「は」との共起を分析することにより、幼児が獲得最初期から格助詞と後置詞を区別していることを実証した。

(2)項削除については、実験が可能となる4歳頃までには(i)wh句を削除することはできないという制約、(ii)付加詞は削除できないという制約、(iii)先行する文と空目的語を含む文の動詞が異なる場合においても「ゆるい同一解釈」が可能であるという事実—これら3点について、成人と同質の知識を持つことを実験調査により示した。

これらの発見は、日本語獲得から観察する限り、日本語・韓国語を特徴づける機能範疇の性質が、観察しうる最初期から幼児の言語知識の中に発現していることを示すものであり、生得的なUGの存在に対し、新たな証拠を提示するものと解釈できる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

Aoyagi, Hiroshi, On Serialization of Verbs in Japanese and Korean, *Harvard Studies in Korean Linguistics*, 査読有, Vol. XV, 2014, 219–231

Aoyagi, Hiroshi, On Verb Serialization in Japanese and Korean, *Proceedings of the Seoul International Conference on Generative Grammar*, 査読有, Vol. 15, 2013, 43–55

Takano, Yuji, Movement of Antecedents and Minimality, *Nanzan Linguistics*, 査読無, Vol. 9, 2013, 193–214

Sugisaki, Koji, A Constraint on Argument Ellipsis, *Proceedings of the Tokyo Conference on Language Development*, 査読有, Vol. 13, 2012, 555–567

青柳宏・張楠, 中国語複合動詞の分類再考—語彙的アスペクトの観点から—, *日本言語学会予稿集*, 査読有, Vol. 143, 2011, 346–351

Takano, Yuji, Double Complement Unaccusatives in Japanese: Puzzles and Implications, *Journal of East Asian Linguistics*, 査読有, Vol. 20, 2011, 229–254

Sugisaki, Koji, Children's Grammatical Conservatism: Evidence from the Acquisition of Case Markers and Postpositions in Japanese, *Proceedings of the Tokyo Conference on Language Development*, 査読有, Vol. 12, 2011, 249–260

Sugisaki, Koji, The Distinction between Case Markers and Postpositions in Early Child Japanese: New Evidence for Children's Grammatical Conservatism, *BUCLD*, 査読有, Vol. 35, 2011
<http://www.bu.edu/buclid/proceedings/supplement>

〔学会発表〕(計20件)

高野祐二, Surprising Constituents Revisited, the Syntax Workshop on Phase, 2014年2月20日, 横浜国立大学

Aoyagi, Hiroshi, On the Architecture of v-Layers in Japanese and Korean, the Workshop on Japanese-Korean Comparative Linguistics, 2013年12月7日, Mie University

Takano, Yuji, Surprising Constituents Revisited: New Puzzles and Their Implications, the Workshop on Japanese-Korean Comparative Linguistics, 2013年12月7日, Mie University

Sugisaki, Koji, More on the Acquisition of Argument Ellipsis, the Workshop on Japanese-Korean Comparative Linguistics, 2013年12月7日, Mie University

Aoyagi, Hiroshi, On Verb Serialization in Japanese and Korean, the 15th Seoul International Conference on Generative Grammar, 2013年8月9日, Hankuk University of Foreign Studies

Sugisaki, Koji, Argument Ellipsis in the Acquisition of Japanese, CREST 言語理論講演会, 2013年7月10日, 上智大学

Aoyagi, Hiroshi, On (so-called) Lexical and Syntactic Compound Verbs in Japanese and Korean, SNU Linguistic Colloquium, 2013年3月26日, Seoul National University

Aoyagi, Hiroshi, On Aspectual Properties of Resultative Compound Verbs in Chinese and Japanese, National Taiwan Normal University Linguistic Colloquium, 2013年2月26日, National Taiwan Normal University

高野祐二、Movement of Antecedents and Minimality、第13回福岡大学言語学コロキウム、2013年2月22日、福岡大学
高野祐二、A Comparative Approach to Japanese Postposing、第13回福岡大学言語学コロキウム、2013年2月21日、福岡大学

Takano, Yuji, Extending Movement Derivations from Control to Binding, the 17th Workshop of the International Research Project on Comparative Syntax and Language Acquisition, 2013年2月17日, Nanzan University

Aoyagi, Hiroshi, On Applicative/Aspect Positions in Japanese and Korean, the International Symposium on Japanese-Korean Dialectal Studies and Grammatical Description, 2012年11月4日, Kyoto University

Sugisaki, Koji, The Ban on Adjunct Ellipsis in Child Japanese, the 37th Annual Boston University Conference on Language Development, 2012年11月4日, Boston University

Sugisaki, Koji, Poverty of the Stimulus in the Acquisition of Japanese Scrambling, Formal Approaches to Japanese Linguistics 6, 2012年9月27日, ZAS/Humboldt University

Takano, Yuji, Movement of Antecedents, the 14th Workshop of the International Research Project on Comparative Syntax and Language Acquisition, 2012年3月8日, Nanzan University

高野祐二、Movement of Antecedents、Sendai Area Circle of Linguistics、2012年2月25日、東北学院大学

高野祐二、Multiple Clefting in Japanese and a Movement Approach to Binding、言語学講演会、2012年1月28日、神戸大学
青柳宏・張楠、中国語複合動詞の分類再考-語彙的アスペクトの観点から-、日本言語学会第143回大会、2011年11月26日、大阪大学

Sugisaki, Koji, A Constraint on Argument Ellipsis in Child Japanese, the 36th Boston University Conference on Language Development, Boston University, 2011年11月5日, Boston University

Takano, Yuji, Movement Effects in Binding, the 4th International Spring Forum of the English Linguistic Society in Japan, 2011年4月24日, Shizuoka University

〔図書〕(計1件)

青柳宏・張楠 他、ひつじ書房、複雑述語研究の現在、査読有、2014年、437

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://porta.nanzan-u.ac.jp/research/>

(青柳)

http://tdb.kinjo-u.ac.jp/search/index.php/search/teacher_info?teacherid=11080

(高野)

<http://faculty.human.mie-u.ac.jp/~sugisaki/>

(杉崎)

6. 研究組織

(1)研究代表者

青柳 宏 (AOYAGI, Hiroshi)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：60212388

(2)研究分担者

高野 祐二 (TAKANO, Yuji)

金城学院大学・文学部・教授

研究者番号：40286604

杉崎 鉦司 (SUGISAKI, Koji)

三重大学・人文学部・教授

研究者番号：60362331

(3)連携研究者

()

研究者番号：